

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	12-083	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Responses to alcohol and cigarette use during ecologically assessed drinking episodes. 生態学的に評価された飲酒エピソード中のアルコールと喫煙の反応		
執筆者		
Piasecki TM, Wood PK, Shiffman S, Sher KJ, Heath AC.		
掲載誌		
Psychopharmacology (Berl). 2012 Oct;223(3):331-44.		
キーワード		
喫煙、タバコ、アルコール、欲求、強化、主観的状况、生態学的・経時的評価		
要 旨		
目的： タバコとアルコールはしばしば同時に使用されるため、本研究では、日常生活における飲酒と喫煙の同時使用と、血中アルコールレベルの上昇および下降への影響について、生態学的・経時的評価の手法を用いて、詳細に解析することを目的とした。		
方法： 対象者は、コロンビア周辺で募集された 259 人の現在喫煙者のうち、過去 1 カ月に少なくとも 4 回の飲酒があり、18 歳以上で、英語が読めて、禁煙中や禁煙予定がなく、節酒・禁酒の失敗経験がなく、アルコール使用障害がなく、女性では妊娠中でない等の条件を満たした者 255 人とした。対象者は、電子手帳の使用方法的説明を十分に受けた直後から 21 日間電子手帳を携帯し、飲酒開始以降のエピソードを記録した。分析は、2,046 の飲酒エピソードに注目して実施した。マルチレベル回帰分析を用い、個人レベルおよび前後関係の共変量として、酔い、めまい、興奮、脱力感、計算式により推定した血中アルコール濃度、喫煙の影響を評価した。		
結果： アルコールとタバコによる、酔い、興奮、快感は、飲酒エピソードの顕著な特徴であった。推定血中アルコール濃度が高い時または下がる時に、喫煙は酔いと興奮の増強に関連していた。喫煙は、推定血中アルコール濃度と飲酒の快感の関連を少し強くするが、男性ではその関連が弱くなった。		
結論： 本研究における最も注目すべき知見は、血中アルコール濃度が下がる時に、喫煙はアルコールの刺激の増強に関連することであった。将来的には、血中アルコール濃度のカーブの下降中にニコチンかタバコを投与する実験的な研究を実施し、本観察研究の信頼性を高め、アルコールとタバコの同時使用および併存症の理解を深めることが望まれる。		